

## 平成30年度刊行 埋蔵文化財発掘調査報告書 要約

金沢市文化財紀要318 『金沢城下町遺跡（飛梅町3番地点）』					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
金沢城下町遺跡（飛梅町3番地点）	城下町	江戸	井戸、土坑、溝	陶磁器、土器、木製品、金属製品、瓦	
<b>要 約</b>					
<p>金沢くらしの博物館リニューアル工事に先立って平成27年度に実施した金沢城下町遺跡（飛梅町3番地点）の発掘調査報告書。金沢城下町遺跡（飛梅町3番地点）は、藩政期においてはいわゆる加賀八家の一家で加賀藩重臣であった前田家（長種系）の下屋敷地の一角にあたる。その後明治32年から石川県立第二中学校の敷地となり、現在は金沢市立紫錦台中学校となっている。現存する石川県立第二中学校の本校舎は金沢くらしの博物館として一般公開され、平成27年には重要文化財に指定されている。</p> <p>発掘調査は金沢くらしの博物館エレベーターホール増設部分100㎡を対象に実施した。地山上で検出された遺構には井戸跡、大小の土坑、溝跡、ピット等があり、藩政期の遺構が主体となるが、井戸跡など一部に廃絶時期が近代以降に入るものがある。井戸跡 SE01 からは前田家（長種系）の家紋である梅鉢文入りの軒平瓦が出土しており注目される</p>					

金沢市文化財紀要319 『金沢城下町遺跡（前田氏（長種系）屋敷跡地区）』					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
金沢城下町遺跡（前田氏（長種系）屋敷跡地区）	城下町	江戸	土坑、建物基礎	陶磁器、土器、土製品、金属製品、石製品	
<b>要 約</b>					
<p>個人住宅建設に先立って平成27年に実施した金沢城下町遺跡（前田氏（長種系）屋敷跡地区）の発掘調査報告書。約16㎡の調査区から土坑9基、建物基礎1基が検出され、16世紀後半から17世紀にかけての遺物が出土している。調査地は金沢城の大手門の北側、藩政期には大手先や尾坂下などと呼ばれた一帯にあり、城下町形成当初は町地、寛永12年(1635)の大火以降は加賀八家の一家である前田家（長種系）の上屋敷地であった。発掘調査では、前田家（長種系）の上屋敷を造営するにあたって行われた土木工事の痕跡を土層断面から確認することができた。</p>					

## 『加賀一向一揆関連遺跡と古道 調査報告書』

平成 25～29 年度にかけて実施された、加賀一向一揆に関連する遺跡と古道を対象とした学術調査の報告書。加賀一向一揆関連遺跡は広範囲に分布するが、今回の調査は既往の調査等によってある程度の状況が把握され、かつ比較的遺構の残存状況が良好な二俣越沿線の寺院や遺跡を調査対象とし、砂子坂道場跡及び二俣本泉寺庭園については発掘調査を実施している。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
砂子坂道場跡	寺院跡	室町	平坦地 堀 土坑 石組井戸	土師器、青磁、珠洲焼、越前焼	

## 要 約

砂子坂道場跡のうち、伝善徳寺地区と伝光徳寺地区の学術調査報告。両地区の発掘調査により、砂子坂道場には 15 世紀後葉に盛土及び切土によって平坦地を造成し、土壁を用いた建物などで構成される建物群が建築されていたことが判明した。遺物から推定される遺跡の年代は蓮如が布教したと伝わる文明年間を含んでいる。また、道場が文明年間のうちに他所へ移転したという伝承も文明年間遺構の遺跡の継続が見られないという発掘調査成果と一致しており、概ね伝承を裏付ける成果が得られた調査結果となった。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
二俣本泉寺庭園遺跡	庭園跡	室町	園池、土坑、州浜	土師器、越前焼、木製品	
		江戸	園池	肥前陶器	

## 要 約

蓮如作庭と伝わる二俣本泉寺「九泉八海の庭」(県指定名勝)の学術調査報告。発掘調査の結果、15 世紀後半から 16 世紀代にかけて、当初は州浜などを用いた園池として整備されたものが、あまり時を経ずして、一旦その機能を失った可能性があることが判明した。これは、本泉寺が二俣から田島、若松へと移転した経緯と関係があるものと推察される。機能を失った後しばらくは畑地などに利用されていた可能性が高い。その後、17 世紀に入り当初の園池形状を大きく改変した整備が行われ、現在の「九泉八海の庭」の完成に至ったとと考えられる。

『畝田・寺中遺跡ⅩⅣ ー木曳野遺跡群ⅩⅡー』

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
畝田・寺中遺跡	集落跡	縄文 弥生 古墳 奈良・平安 鎌倉・室町	掘立柱建物跡 6 棟 平地式建物跡 1 棟 溝跡 22 条 井戸・土坑跡 9 基	土師器 須恵器 陶磁器 木製品 石製品	

要 約

土地区画整理事業に先立って実施した畝田・寺中遺跡の発掘調査報告書。本書は平成 16 年度に調査した東西の区画道路のうち、東側の調査区について報告。掘立柱建物跡、平地式建物跡、井戸跡、溝跡等を検出した。SD308 及び SD317 は環濠と考えられる溝跡で、弥生時代後期から古墳時代初頭の土器が定量出土している。SB301 は平地式建物で建て替えが確認でき、平成 14 年度調査で検出した建物跡を含め集落域を形成する建物群の南限を示すものと見られる。

『大友 A 遺跡・大友 E 遺跡・直江西遺跡』遺構図・自然科学分析編

金沢外環状道路（木越福増線）築造工事に先立ち平成 23～25 年度に発掘調査を実施した大友 A 遺跡・大友 E 遺跡・直江西遺跡の発掘調査報告書のうち遺構図・自然科学分析編。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大友 A 遺跡	集落跡	古墳 平安	土坑、溝・川、 道路状遺構	土器、陶磁器、石製品、 木製品	

要 約

古墳時代では前期の土坑や井戸状土坑、溝が検出されており、集落の一端の様相を示している。平安時代では併走する溝が検出されており、道路状遺構の可能性はある。ただし、地山直上での検出であるため、路盤構造については不明である。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大友 E 遺跡	集落跡	弥生 古墳 平安	掘立柱建物、布柱 建物、平地式建物、 竪穴建物、土坑、 井戸、溝、川	土器、陶磁器、石製品、 木製品	古墳時代の鋳形 石や平安時代の 墨書土器などが 出土

要 約

弥生時代では中期後半から終末期の溝や川から赤彩桶や弓などが出土している。  
 古墳時代では鍬形石や管玉、白玉、棗玉などの装飾品類が出土している。  
 平安時代では大型柱穴の特大建物跡が検出され、隣接する川から大量の墨書土器や施釉陶器が出土しており、公的機関もしくは荘園関連施設などが存在した可能性がある。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
直江西遺跡	集落跡	弥生 古墳 鎌倉	溝、川、方形周溝 墓	土器、陶磁器、石製品、 木製品、ガラス製品	弥生時代のガラス玉が出土

要 約

弥生時代では方形周溝墓の可能性のある溝状遺構を検出しており、遺構内からガラス玉が出土している。  
 古墳時代では河川跡から前期の土器とともに大量の木製品が出土している。多様な製品が出土しており、桶や槽などが多数含まれる。  
 また、古墳時代の河川跡に重複して鎌倉時代の溝が検出され、古銭などが出土している。